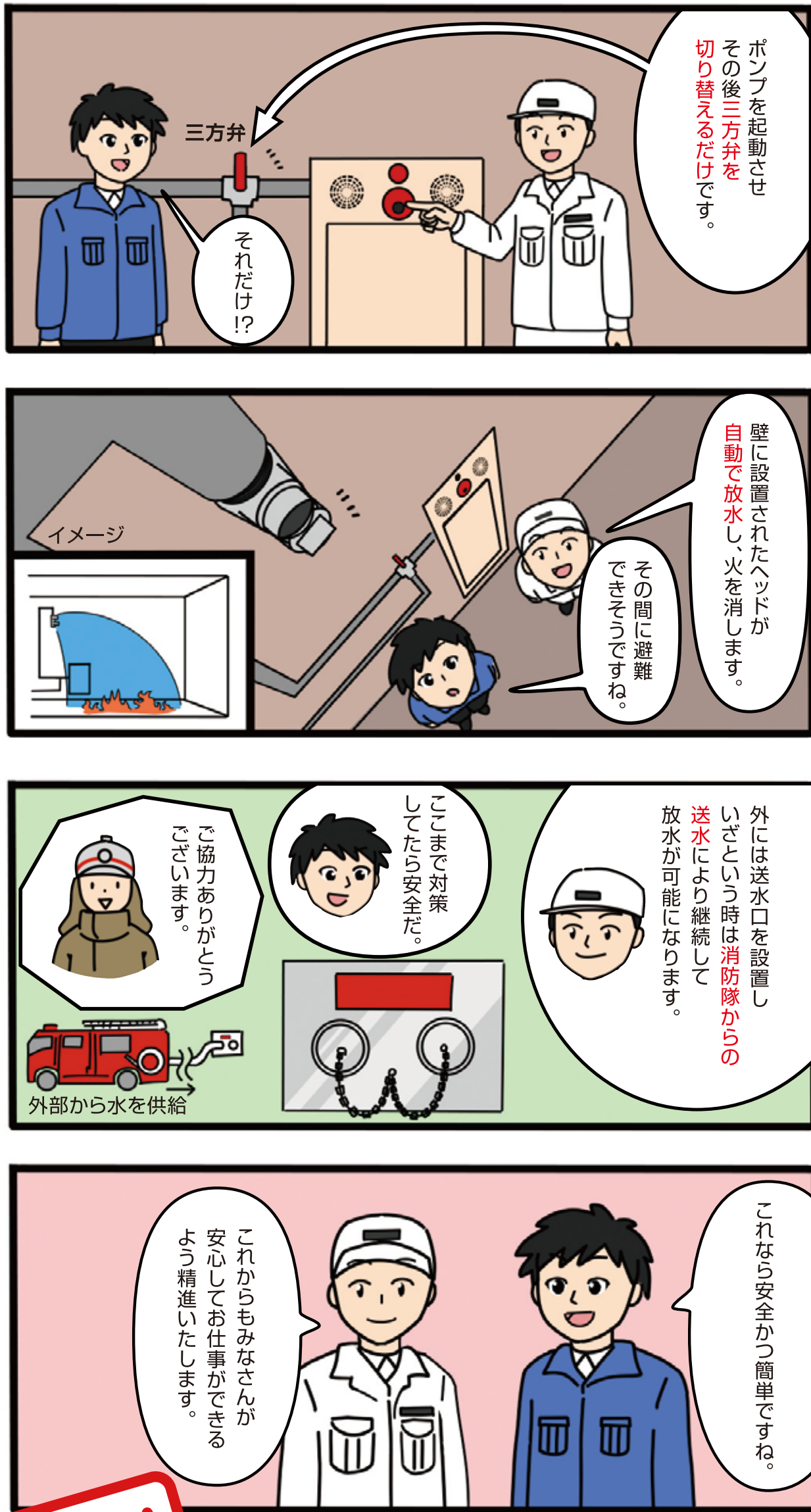


消火栓を活用した防災コンサルティング

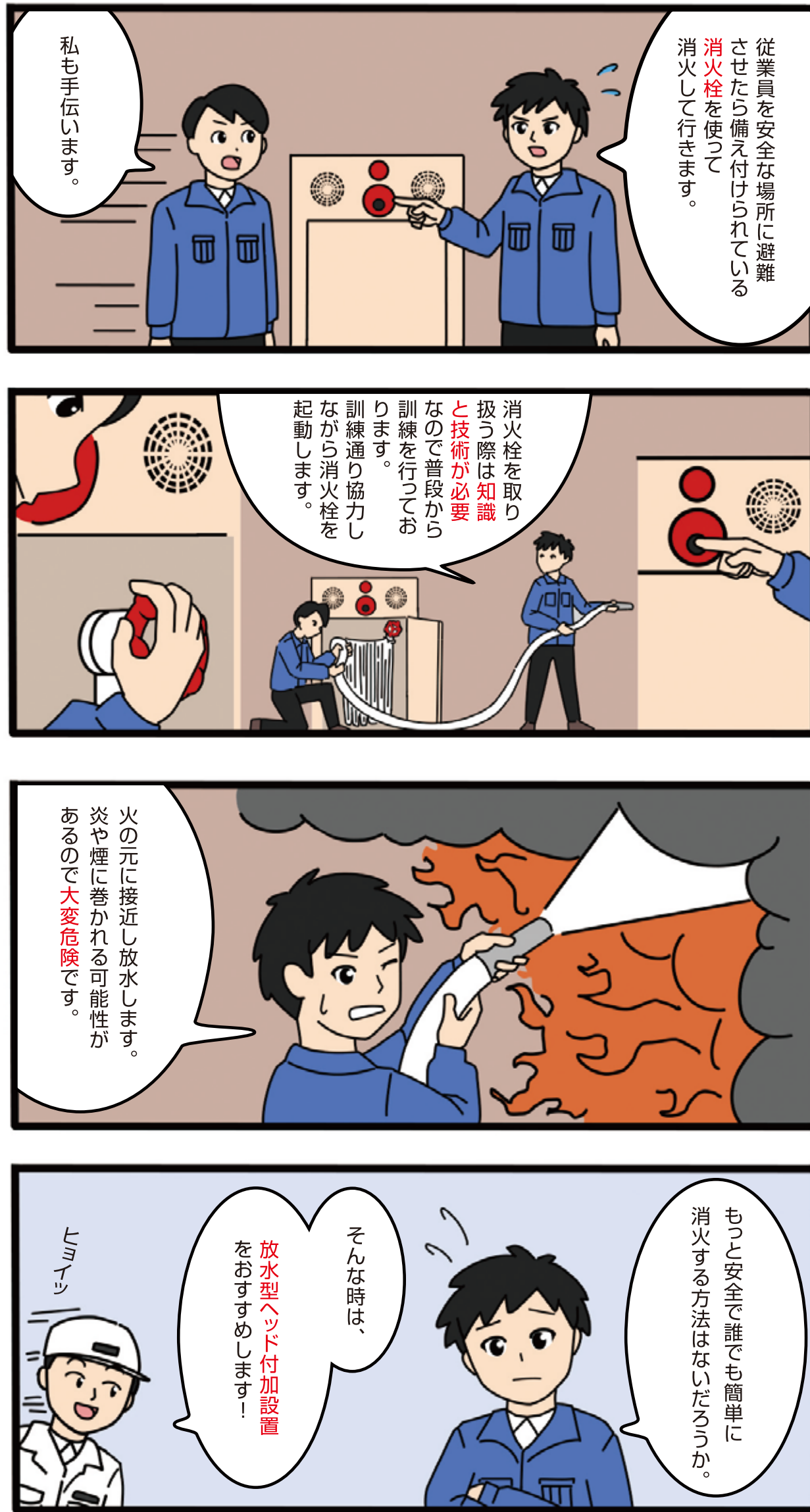
改善後

法令設置+放水型ヘッド付加設置の場合



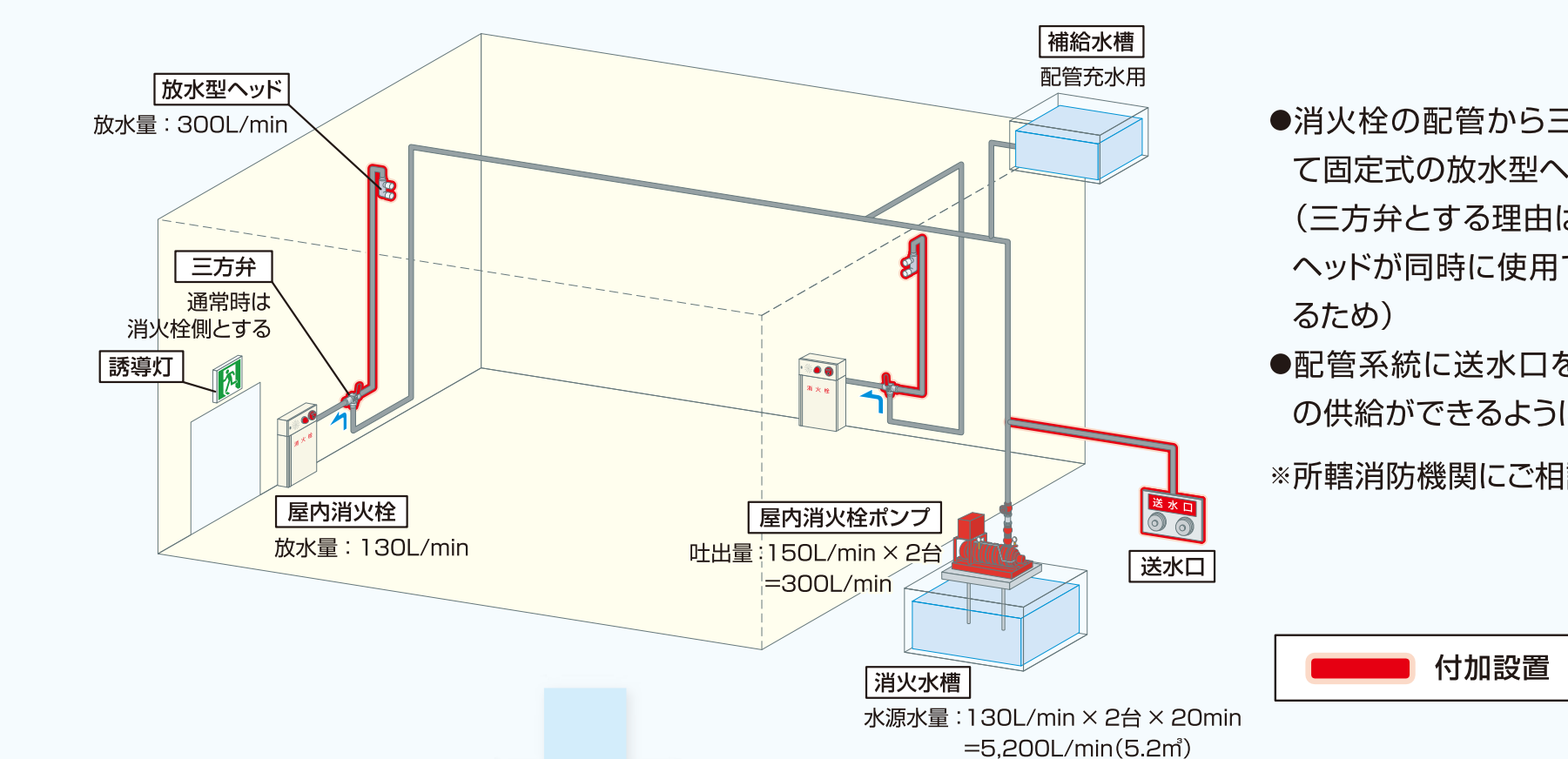
現状

法令設置の場合

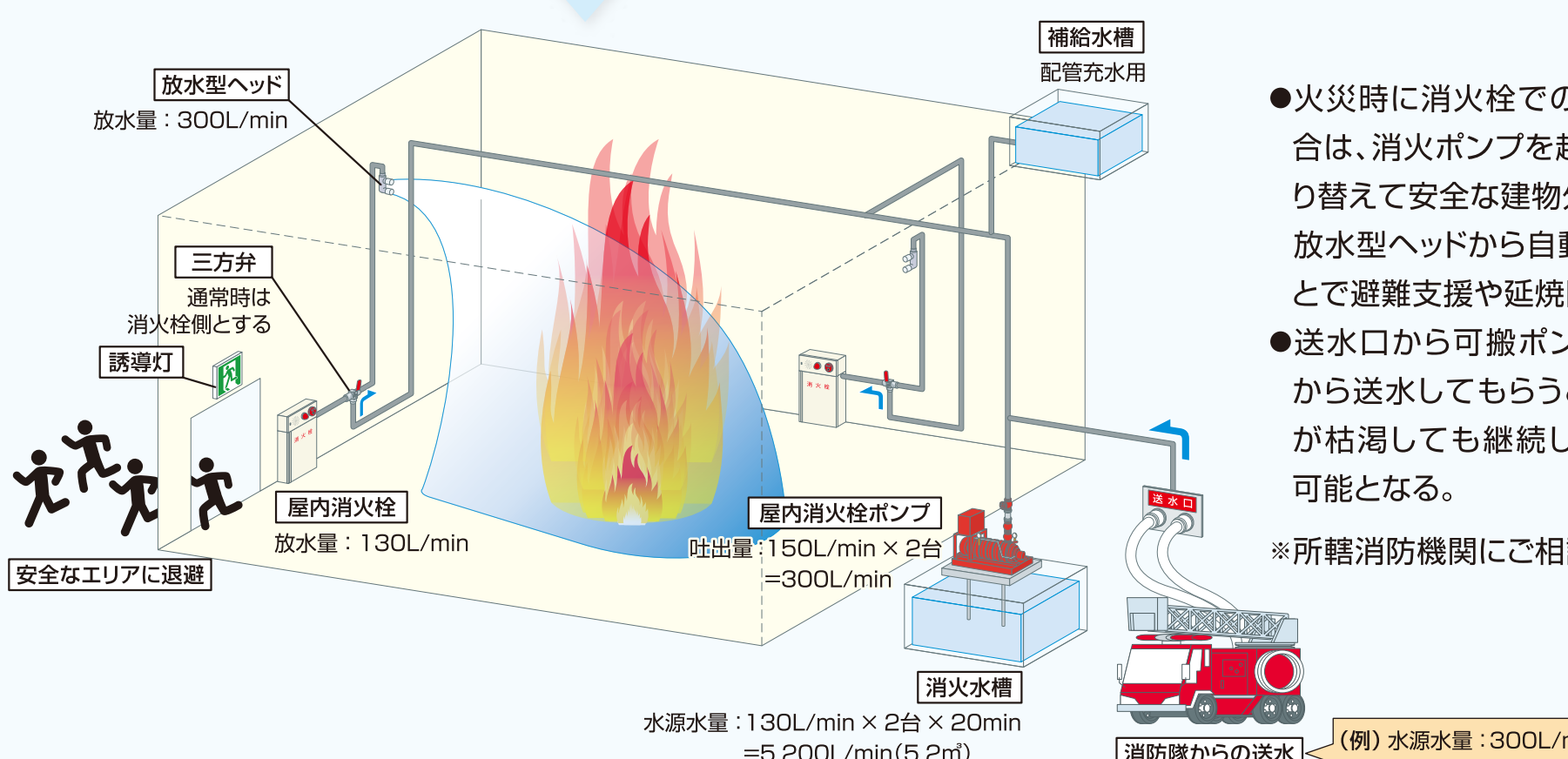


解決!

法令設置+放水型ヘッド付加設置の場合

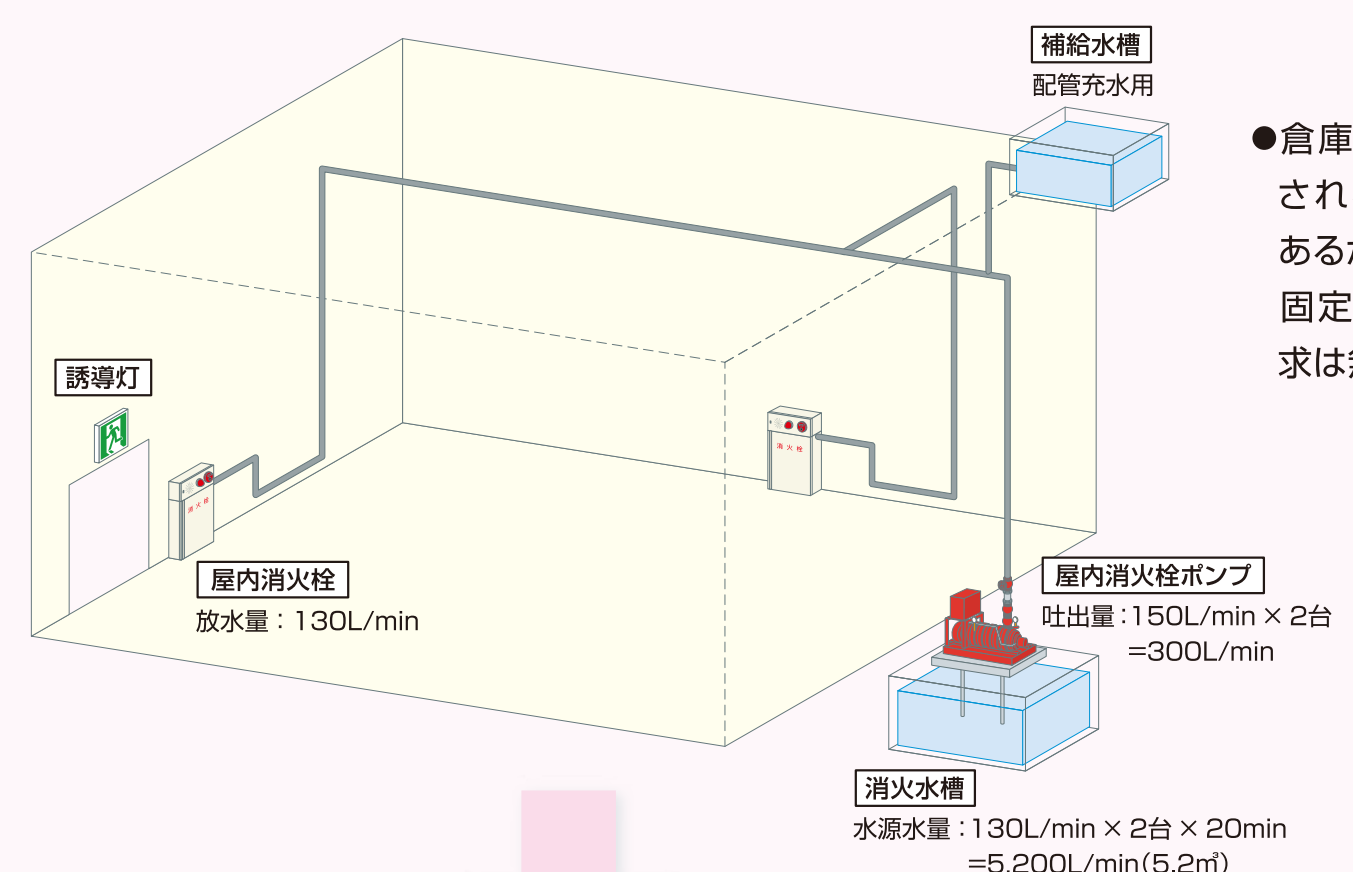


- 消火栓の配管から三方弁で分岐させて固定式の放水型ヘッドを設置する。
(三方弁とする理由は消火栓と放水型ヘッドが同時に使用できないようにするため)
 - 配管系統に送水口を設け外部から水の供給ができるようにする。
- ※所轄消防機関にご相談ください。

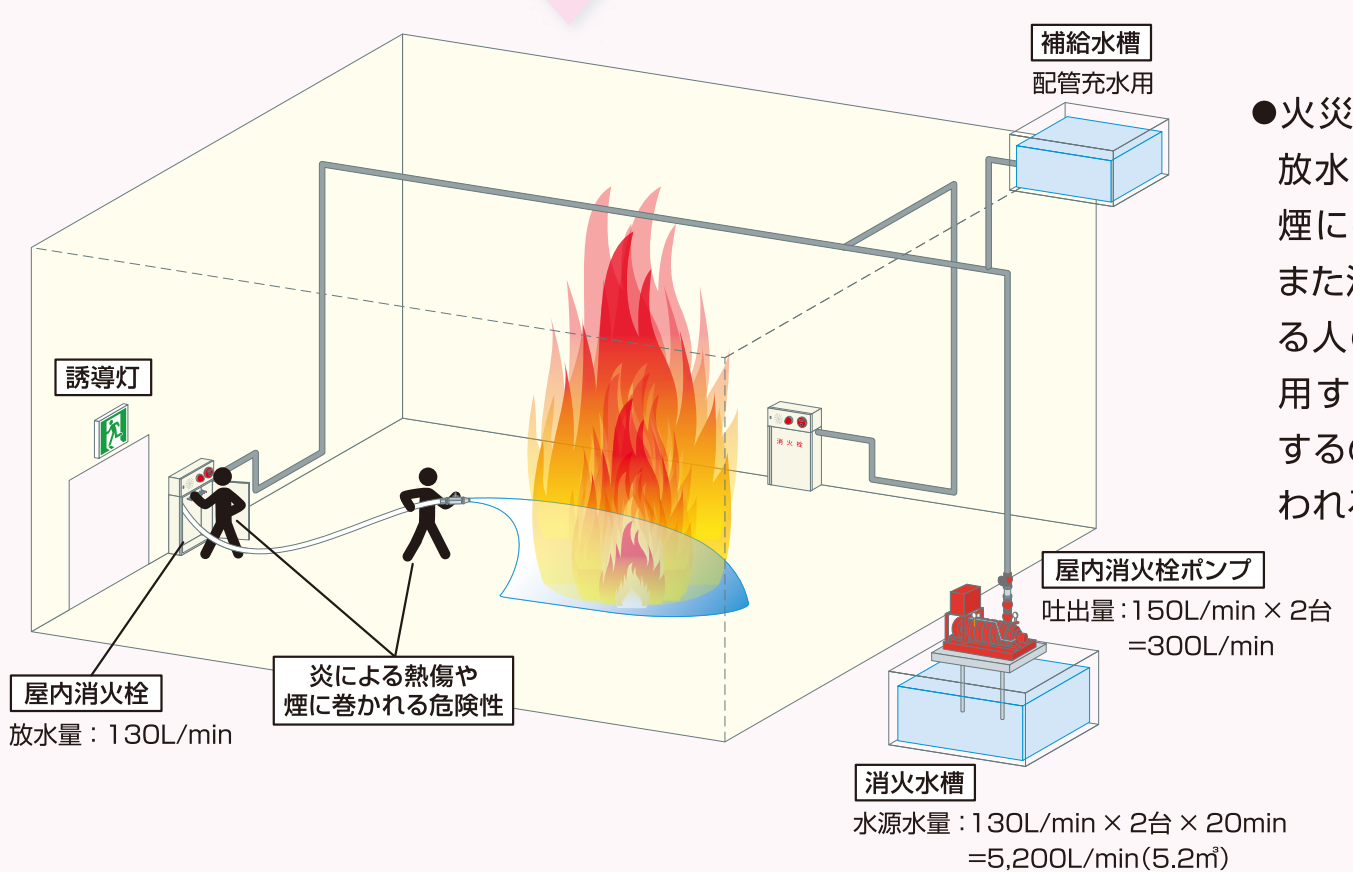


- 火災時に消火栓での消火を諦める場合は、消火ポンプを起動し三方弁を切り替えて安全な建物外へ避難する。
放水型ヘッドから自動で放水されることで避難支援や延焼防止となる。
 - 送水口から可搬ポンプまたは消防隊から送水してもらうことで、消火水槽が枯渇しても継続して放水する事が可能となる。
- ※所轄消防機関にご相談ください。

法令設置の場合



- 倉庫関係には移動式に分類される消火栓の設置義務はあるが固定式の消火設備までの要求は無い。



- 火災時は人が火点に接近し放水して消火するため、炎や煙に巻かれる危険性がある。
また消火栓を開く人と放水する人の2名が必要。正しく使用するには知識や技術を要するので、緊急時に有効に使われることが少ない。